

全体を通して(特に良いと思われる点)	
ホームでは、「まごころ」を込めて利用者一人ひとりと接することを心がけておられる。新しい利用者を迎える時には、歓迎会をされたり誕生会なども行われている。職員は、日々利用者に対して和やかな態度で寄り添い、やさしい声かけをされており、入居後、言葉が多く出るようになった方などもある。最近では、利用者のかねてからの希望でもあった高縄山に登り、頂上の茶屋でおそばを召し上がるなど有意義で楽しい時間を過ごされた。また、以前されていた三味線を入居後、再び弾き始めた方などもおられ、それぞれの自信の回復につなげておられる。さらに、ホームでは、日々の食事の重要性を認識されており、管理栄養士や介護食士のアドバイスを受けながら食事作りに取り組んでおられ、利用者の好みもうかがいながら一人ひとりの食生活にも心配りがなされている。月に1回、他施設との合同の勉強会には職員全員が出席され個々のスキルアップが図られている。今夏、運営推進会議の開催やホームでの夏祭りを行なう計画などもあり、さらに地域に開かれたホーム作りへの取り組みも始まっている。	
分野	特記事項(特に改善を要すると思われる点)
運営理念	利用者の義務については、契約書に明示されているが、利用者がホームでどのような生活ができるのかという暮らしの中での権利についても契約書に分かりやすく示されることが期待される。
	要改善点は特になし。今後も、利用者一人ひとりにとっての居心地のよい生活空間作りの工夫を重ねていかれてほしい。
生活空間づくり	
	食事や入浴などご本人のペースで行えるよう支援しておられるが、時間帯によっては利用者のペースを優先できないような場面がある。ホーム自身の気付かれていることでもあり、職員の忙しいような時間帯などについても、柔軟に利用者一人ひとりのペースを保つことができるよう工夫を重ねていかれてほしい。感染症マニュアルを作成し、うがいや手洗いなどを実行されているが、洗面所に掛けてある利用者別のタオルの設置方法などについても、感染予防という面で検討されてみてほしい。
ケアサービス	
	職員の親睦の機会などもあるが、日々の職員の業務に忙しさがうかがえる。さらなる職員の悩みやストレスを解消するような方策についてこの機会に話し合われてみてほしい。野菜作りやマンドリン演奏のボランティアなどを受け入れられ、個別の介護相談などにも対応されているが、今後、さらに、ホームの特性や有用性を活かした発展的な取り組みが期待される。
運営体制	
	マニュアルの作成や訓練などが実施されている。今後、さらに地域との連携体制の充実を図り、利用者やご家族のさらなる安心と安全に向けて取り組まれてほしい。
その他	

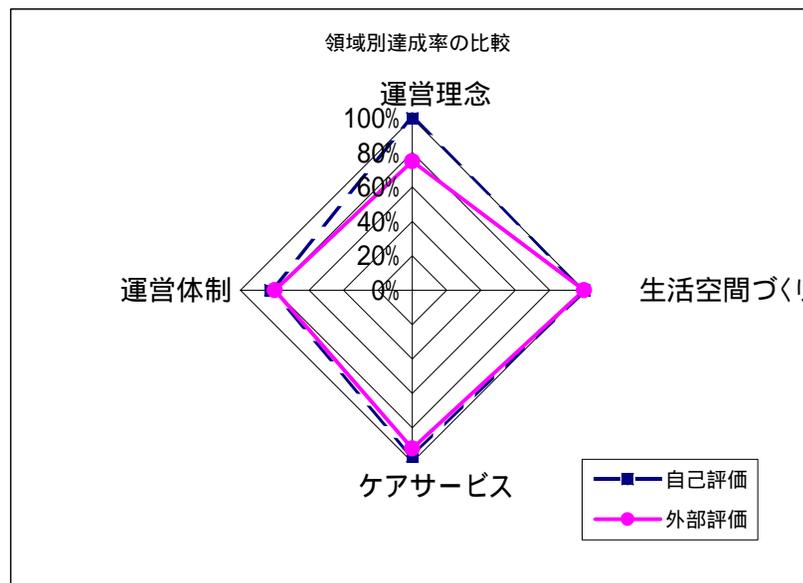
分野・領域	項目数	「できている」項目数
運営理念		
運営理念	4項目	3
生活空間づくり		
家庭的な生活環境づくり	4項目	4
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
ケアサービス		
ケアマネジメント	7項目	7
介護の基本の実行	8項目	7
日常生活行為の支援	10項目	10
生活支援	2項目	2
医療・健康支援	9項目	7
地域生活	1項目	1
家族との交流支援	1項目	1
運営体制		
内部の運営体制	11項目	9
情報・相談・苦情	2項目	2
ホームと家族との交流	3項目	3
ホームと地域との交流	4項目	2
その他		
火災・地震等の災害への対応	1項目	1

自己評価・外部評価の達成率の比較

分野・領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	5	100%
生活空間づくり	13	100%
ケアサービス	77	97%
運営体制	40	83%
合計	135	93%

分野・領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	4	75%
生活空間づくり	10	100%
ケアサービス	38	92%
運営体制	20	80%
合計	72	89%

自己評価作成日	平成18年7月20日
訪問調査日	平成18年8月1日
評価結果確定日	平成18年9月15日



レーダーチャート・表の見方

*自己評価結果・自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し一事業所での達成率として表しています。

*外部評価結果・外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。

*自己評価・外部評価の達成率の比較・自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。				管理者は、グループホームに関わる意義を理解されており、ホームの理念については職員会議などの機会を捉え話をしておられる。	
2	3 運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、利用者及びその家族や代理人等(以下「家族等」という。)に分かりやすく説明している。				ホームの理念は、リビングに分かりやすく掲示されており、利用者やご家族などにも説明されている。	
3	4 権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、利用者及びその家族等に説明し同意を得ている。				利用者の義務については、契約書に明示されているが、利用者の権利についても分かりやすく明記されることが望まれる。	利用者がホーム内でどのような生活ができるのかという暮らしの中での権利を、契約書に分かりやすく示されることが期待される。
	2. 運営理念の啓発					
4	5 運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)				運営推進会議を開催され、地域の方々にホームの運営方針や日々の取り組みをなどについて理解していただいている。また、町内会に法人代表者が出席され積極的に広報・啓発に取り組んでおられる。	
	運営理念 4項目中 計	3	1	0		
	生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)				玄関前の植え込みには、ほのぼのとした木製の老夫婦の人形が飾られていた。また、季節の草花が植えられたプランターなど親しみやすい家庭的な雰囲気作りをされている。	
6	7 家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。				居間には、利用者の手による絵や書、利用者の写真が飾られていた。畳スペースには、季節の花と七夕のお供え物が置かれ、家庭的な雰囲気となっていた。また、階段の明かり窓には観葉植物やあたたかみのある小物を飾り、壁には手作りのタペストリーを掛けるなどしつらえに工夫がなされていた。	
7	8 共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、利用者が一人になったり気のあった利用者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。				居間にはゆったりとしたソファやテーブル、畳スペースもあり、利用者は思い思いの場所で過ごしておられる。2階ユニットの入り口に置かれている椅子がお気に入りの利用者もおられた。また、庭には木製のベンチが設置されていた。	

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
8	9					
					居室には、タンスやソファ、テレビや鏡、三味線など馴染みのものを持ち込んでおられる。また、思い出の写真やお孫さんからのプレゼント、ご自身の手作りのカレンダーを飾るなど、それぞれが安心して過ごせる場所となっていた。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計		4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり						
9	11					
					ホームの要所には手すりが設置され、浴室は三方から介助できるようになっており、リフトが設置されている。台所の流し台は利用者が使いやすい高さに配慮されており、洗面台は車椅子でも使用しやすくなっている。	
10	13					
					居室入り口には、個々に好みののれんをつるし、木製のネームプレートを見やすい位置にかけている。また、トイレは「便所」と表示されるなど場所間違いを防止できるよう工夫されている。	
11	14					
					利用者が落ち着いて過ごせるように、自然のやさしい光を採り入れておられる。テレビやCDの音量、職員の会話のトーンなど利用者の状態に合わせて配慮されていた。	
12	15					
					ホームは24時間自動換気となっているが、玄関に網戸を設置されるなどできるだけ自然の風を採り入れるよう配慮されている。調査訪問時、空気のとどみや臭気は感じられなかった。	
13	17					
					居間には見やすい時計や大きめの日めくり、利用者手作りのカレンダーが掛けられていた。また、鈴虫の音色や、七夕の笹飾りなど、ホーム内でも季節を感じることができる。	
14	18					
					掃除道具や園芸用品、裁縫道具などを目の届くところに用意されている。また、オルガン、書道・絵画用具など趣味の品も提供されている。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計		6	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。				モニタリングシートを活用し、一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成しておられる。	
16	21	介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。				介護計画作成に当たっては、ケアカンファレンスを行い、すべての職員の気づきや意見が採り入れられている。計画の内容をすべての職員が日常的に確認できるよう、個別にファイルされている。	
17	22	介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。				介護計画は、ご家族と相談しながら作成されており、作成後はコピーを送付されている。	さらに、意見が少なめのご家族などに対しても家族の声の大切さをお伝えし、また、利用者の求めていることにもこだわりながら計画を作成するような取り組みなども期待される。
18	23	介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。				介護計画は、3ヶ月ごとに見直されており、状態変化時には随時の見直しもされている。	
19	24	個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。				利用者一人ひとりの健康状態や日々の暮らしがりが詳細かつ具体的に分かりやすく記録されている。職員の意見や気づきなども記入されており、介護計画に反映できるようになっている。	
20	25	確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。				日誌、連絡ノートなどを活用し、重要な点は赤で線を引くなどされて確実な情報伝達が行われている。	
21	26	チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。				職員会議は月1回、2ユニット合同で開催され、終了後ユニット会を行うようになっている。会議には法人代表者も参加されて、活発な意見交換がなされている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27 利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)				職員は、利用者一人ひとりの思いや言動を大切にされ、ホーム理念でもある「まごころ」をこめたケアに努めておられる。調査訪問時、職員が利用者の居室に入る際には声をかけておられた。また、2階ユニットの方が、昼食後、「店番に行く」と1階ユニットに下りていかれた際には、ご本人の思いを尊重し対応されていた。	
23	28 職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気です。				職員は、明るい笑顔で利用者に対してやさしく寄り添われていた。また、利用者の話にゆったりと耳を傾けておられた。	
24	30 利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。				利用者一人ひとりの生活歴や大切な思い出や特技などをご本人やご家族などからうかがい、一人ひとりがその人らしい暮らしをホームでも続けていけるよう支援されている。三味線やオルガン演奏をホームで披露される方もおられる。	
25	32 利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				職員は、食事や入浴などご本人のペースで行えるよう支援しておられるが、時間帯によっては利用者のペースを優先できない場面もある。	ホームでも気付かれていることでもあり、特に職員の忙しいような時間帯なども、柔軟に利用者一人ひとりのペースを保つことができるよう工夫を重ねていかれてほしい。
26	33 利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)				散歩の希望、食事の好みなど、職員は日々の暮らしの中で利用者が選んだり決めたりできるような場面づくりをされている。	
27	35 一人ですることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)				食事の下ごしらえや食器洗いなど、できるだけご自身の力を発揮しながら生活できるよう支援されている。	
28	37 身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。				職員は、身体拘束について正しく認識されている。転倒予防のためセンサーマットを使用されたり、居室に畳を敷きその上にじゅうたんを重ねて敷いている方もおられる。	
29	38 鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)				日中は玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようになっている。	
介護の基本の実行 8項目中 計		7	1	0		

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。				茶碗や湯呑みなどはご自身のものを使っておられる。また、ホームでも家庭的な食器を用意されている。	
31	44 利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。				利用者個々の体調や状態に合わせて、食べやすいように調理されている。嚥下困難な方はストローでお茶を飲まれたり、お茶をゼリーにされるなど配慮されていた。個々の食べる量に合った大きさの器に盛り付け、ほとんどの方が残さず召し上がっていた。	
32	45 個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。				利用者個々の食事摂取量や水分摂取量を日々記録されている。管理栄養士や介護食士の指導を受け、摂取カロリーを計算し栄養バランスを考慮して献立を作成しておられる。	
33	47 食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。				職員も利用者と共に食事を楽しんでいた。食が進まない方のペースを配慮されたり、食べやすい食器に替えるなどさりげなくサポートされていた。利用者個々におしぼりが用意されていた。	
	2) 排泄					
34	48 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。				職員は、排泄チェック表にて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう声かけや誘導をされている。	
35	50 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				職員は、利用者の耳元に話しかけさりげなく誘導しておられた。失禁の際にはそれとなくトイレに誘導するなど、プライバシーに配慮されている。	
	3) 入浴					
36	53 利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)				時間帯や回数など利用者一人ひとりの希望に合わせて、くつろいだ入浴ができるよう支援されている。また、洗髪の有無、清拭、シャワー浴など入浴の形態が分かるように記録され、入浴の状況を把握し支援されている。	
	4) 整容					
37	56 理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)				現在は、ボランティアの方に月に1回来ていただき、カットしていただいている。	

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
38 57	プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)				利用者の皆さんは身だしなみきちんとしておられ、ネックレスなどおしゃれを楽しまれている方もいた。	
	5) 睡眠・休息					
39 60	安眠の支援 利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。				医師と相談の上、眠剤を使用されている方もおられるが、利用者個々の睡眠パターンを把握し、日中の活動を通して生活リズムを作り、安眠できるよう支援されている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計		10	0	0		
	(3) 生活支援					
40 64	金銭管理の支援 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。				ご自身で管理されている方は、買い物時にはご自分で支払われる。また、財布をホームで預かり、外出時にお渡ししている方もおり、利用者個々の希望や力量に応じて支援されている。	
	(4) ホーム内生活拡充支援					
41 66	ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)				台所仕事全般、洗濯物たたみや野菜作り、犬の世話、書道、三味線・オルガン演奏など利用者一人ひとりの趣味などをホーム内でも楽しむことができるよう支援されている。訪問時、利用者の皆さんが最高齢の方が叩くタンバリンに合わせて懐かしい唱歌を歌っておられた。	
生活支援 2項目中 計		2	0	0		
	(5) 医療機関の受診等の支援					
42 68	医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)				協力医療機関を確保されており、いつでも気軽に相談でき、夜間にも対応していただけるようになっている。	
43 73	早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。				利用者が入院された場合は、お見舞いにかがいがい、ご家族や医療機関と早期退院に向けて連携しておられる。職員が毎日、食事介助に通われるようなこともあった。	
44 74	定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。				利用者によっては主治医の往診が2週間に1回あり、他の方は月に1回受診されており、医師の指導を受けることができるようになっている。	

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76 身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。				家事や散歩、草刈りや散水、歌唱や楽器演奏など日常の当たり前の生活の中で身体機能が維持向上できるよう支援されている。また、健康体操や食前には口腔体操にも取り組んでおられる。	
	(7)利用者同士の交流支援					
46	78 トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。				職員は、トラブルを未然に防ぐことができるよう利用者同士の関係性なども把握できるよう努めておられる。トラブルが起きた場合は、職員が十分に気を配り適切に対応し、関係性を継続できるよう支援されている。	
	(8)健康管理					
47	80 口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)				毎食後、利用者個々に応じた口腔ケアを行えるよう支援されている。	
48	83 服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。				職員は、利用者個々にファイルされた処方箋を確認し、適切に服薬できるよう利用者に手渡しされていた。薬が変わった場合や症状の変化時には連絡ノートなどに記録し全員が把握できるようになっている。	
49	85 緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)				緊急対応マニュアルを作成され、勉強会も開かれているが、さらに、すべての職員が緊急時に適切に対応できるよう、実技を含めた定期的かつ継続的な学習に取り組まれることが期待される。	緊急時はいつ起こるか分からないことでもあり、すべての職員が医師や救急車などが来るまでの間の応急手当を行えるよう、さらなる取り組みが期待される。
50	86 感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)				感染症マニュアルを作成し、うがいや手洗いなどを実行されているが、洗面所に掛けてある利用者別のタオルの設置方法などについても、感染予防という面で検討されてみてほしい。	この機会を感染症全般についてすべての職員で知識を高めるような機会とされてはどうだろうか。
医療・健康支援 9項目中 計		7	2	0		
	3. 利用者の地域での生活の支援					
51	90 ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)				日々の散歩や買い物、近隣の高校の運動会などにも出かけている。最近では、利用者のかねてからの希望でもあった高縄山に登り、頂上の茶屋でおそばを召し上がるなど楽しい時間を過ごされた。	
地域生活 1項目中 計		1	0	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	4. 利用者と家族との交流支援					
52	94 家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)				調査訪問時にご家族の来訪があり、職員は笑顔で歓迎され、ご家族も居心地よく過ごしておられた。朝、夕に来訪されるご家族もおられる。また、遠方のご家族の中には、1週間ほど宿泊される方などもおられる。	
家族との交流支援 1項目中 計		1	0	0		
	運営体制 1. 事業の統合性					
53	96 責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。				法人代表者及び管理者は、ホームの質の向上に熱意を持って共に取り組んでおられる。	
54	97 職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受け入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。				介護従業者の採用、利用者の受け入れなどについて、現場職員の意見を聞き反映されている。	
55	101 成年後見制度等の活用推進 利用(予定)者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している(制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等)。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。				現在、制度を活用されている方はおられない。今後、制度の活用推進に向けて、ホーム全体でも制度についての知識や理解を深めることができるよう取り組んでいかれることが望まれる。	この機会に、制度の活用促進に向けて、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について勉強会を行うなどさらなる取り組みが期待される。
	2. 職員の確保・育成					
56	102 利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				利用者の状態に合わせ職員のローテーションが組まれている。	
57	104 継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				すべての職員が研修を受講できる機会を作っておられる。受講後は、報告書を作成し職員会議で報告されている。また、月に1回、全職員が他施設との合同の勉強会に出席されている。	
58	106 ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				職員の親睦は図られているが、日々の職員の業務にも忙しさがうかがえた。さらなる職員の悩みやストレスを解消するような方策についてこの機会に話し合われてほしい。	また、時には利用者と離れて一息入れるような時間や場所作りなどについても話し合われてみてはどうだろうか。

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
3. 入居時及び退居時の対応方針							
59	108	<p>利用者の決定のための検討</p> <p>グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)</p>				入居前にはご本人やご家族などと面談し、ご本人の状態や希望を把握され入居対象者であるか検討されている。体験入居される方もおられる。	
60	110	<p>退居の支援</p> <p>退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。</p>				契約に沿って、ご本人やご家族の納得のいく退居先に移ることができるよう支援されている。	
4. 衛生・安全管理							
61	113	<p>ホーム内の衛生管理</p> <p>ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)</p>				台所用品などは毎日消毒されており、洗濯機2台を使い分けておられる。	
62	115	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。</p>				薬や洗剤などは、保管場所を決め職員が管理するようになっている。	
63	117	<p>事故の報告書と活用</p> <p>けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)</p>				事故報告書を作成し、再発防止に向けて話し合いがなされ、サービスの改善につなげておられる。	
内部の運営体制 11項目中 計			9	2	0		
5. 情報の開示・提供							
64	119	<p>調査等の訪問に対する対応</p> <p>介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。</p>				調査訪問時、積極的な情報提供が行われた。	
6. 相談・苦情への対応							
65	120	<p>相談・苦情受付の明示</p> <p>相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。</p>				ホームの相談・苦情の窓口を明確にされ、利用者やご家族などに説明されている。玄関に苦情箱を設置しておられる。	この機会に、苦情箱が利用者やご家族にとって利用しやすいものとなっているかということ、ご家族の立場に立って話し合われてみてはどうだろうか。
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	7. ホームと家族との交流					
66	123 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。				ご家族はよく来訪されており、来訪時には近況を報告されて、ご家族の意見や要望もうかがうようにされている。家族会は、年に1回開催されている。その際には、アンケートも実施されている。	
67	124 家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)				季刊のホーム便り「まごころ」や「まごころ新聞」をご家族に送付され、ご本人の暮らしぶりやホーム全体の様子などを具体的に伝えておられる。また、ホーム内には、利用者の様子の写真が掲示されている。	
68	127 利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。				ホームでの預かり金については、個別の金銭出納帳により管理されており、毎月、領収書などを添えてご家族に報告するようになっている。	
ホームと家族との交流 3項目中 計		3	0	0		
	8. ホームと地域との交流					
69	128 市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。				市との連絡を取っている。	ホームでは、家族介護教室などの受託を考慮しておられる。地域の認知症ケア向上のためにも、運営推進会議などの機会を捉え、さらに積極的に連携を図っていかれることが期待される。
70	131 地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。				法人代表者が地元の青年団に所属されており、ホームの存在は地域に知られているが、普段、近所の方達が気軽にホームに立ち寄ってくれるようなことは少なめである。	今年の夏は、ホーム主催の夏祭りを開き、近所の方にも参加していただくような計画も考えておられる。そのような機会を活かして、地域の方達との交流をさらに深めていかれることが期待される。
71	133 周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)				日常的に近所のスーパーなどを利用され、高校や大学、消防や警察などにも働きかけをしておられる。また、地域の老人福祉施設や他のグループホームとも交流されている。	
72	134 ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)				野菜作りやマンドリン演奏のボランティアなどを受け入れられ、個別の介護相談などにも対応されているが、今後、さらに、ホームの特性や有用性を活かした発展的な取り組みが期待される。	また、ホームで培った認知症ケアのノウハウを活かした取り組みなども期待される。
ホームと地域との交流 4項目中 計		2	2	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		その他					
73	144	火災・地震等の災害への対応 利用者や施設の状況を考慮に入れ、夜間も念頭においた防災対策を講じている。(災害発生時の職員、家族、その他関係機関(母体法人等)との連絡体制の確保、防災応援協定など地域との連携体制の確保、これらの連絡・連携体制を踏まえた災害に対応するための手引書等の作成、避難・誘導等定期的な訓練の実施等)				災害対応マニュアルを作成し、年2回、防火避難訓練を実施されており、1回は夜間に実施された。また、職員の緊急連絡体制も整っている。	今後、さらに地域との連携体制の充実を図り、利用者やご家族のさらなる安心と安全に向けて取り組まれてほしい。
火災・地震等の災害への対応 1項目中 計			1	0	0		

* (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。